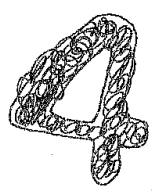


# 日本の学童ほいく



4月号

月刊紙

春日

ちよとひらいて  
みいひん?

日本の学童ほいく誌は、1974年に学童保育に思いを寄せる全国の仲間们的努力によって創刊されました。子どもの思いや保護者・指導員の思いがいっぱい詰まった、日本にたった一つの学童保育専門雑誌です。よりよい学童保育を



「指導員」=「あながれられる存在」でなければならぬと思っていた私ですが、「指導員」=「家族めいたな存在」でもいいんだ。無理に格好つけずに自然体のままで、子どもたち一人ひとりに向きあうことが大切だと思いました。  
守口市指導員 甲斐さん文章より

つくっていくために、この一冊を一人でも多くの方にご購読いただきたいと思っています。ぜひ保護者会でお誘いあわせください。

## とまりただあのかんそうばん



(大阪学保協 副会長 ぞす)

友達ができるだろうかと不安なのは一年生だけではありません。上級生の子どもたちも、保護者の方々も、不安な気持ちを抱えています。できるだけ楽しいことをつながる、そんな場面をたくさん探してたいいなと取っています。  
吹田市指導員 池田さん文章より

4月号をぺらぺらとめくり、「おっ！今号はいいぞ！」(失言)と読み始め、大阪の仲間(池田さん甲斐さん)の原稿に真っ先に目を通す。いいなあ。池田文子さんの心遣いほどの優しさや甲斐浩さんの自らを振り返る確かさ、二人の若い仲間から学ぶことの多いレポートでした。

巻頭のグラビアは沖縄県浦添市の「湊川学童クラブ」。南国の子どもたちのあたたかい笑顔ににんまりしていたら、あれれここに写っている男性指導員はもしかしてM川くんかな？彼は大正区生まれの大正区育ちで、人生の探索に全国を旅し、沖縄で学童保育に出逢いそのまま沖縄に移住して指導員となった青年(もう、青年ではないか)なのです。

特集「春あらたなスタート学童保育」に寄せられたふたつの小論文、一つは全国研でお馴染みの庄井良信さん。「一人でがんばる必要はない。強がる必要もない。学童保育には、不安やこまりごとも、安心して聴きあい、語りあい、祈るような思いで希望の糸を紡ぎあうことを、何よりも大切にしてきた歴史がある」なんて優しく語られると、本当にうれしくなっています。

もうお一方の小川絢子さんは自身も子ども時代を学童保育で過ごされた若手研究者。名古屋で教鞭をとられていますが、新幹線なら大阪まで1時間。ぜひ、お招きして大阪の指導員と一緒に学びたい方ですね。

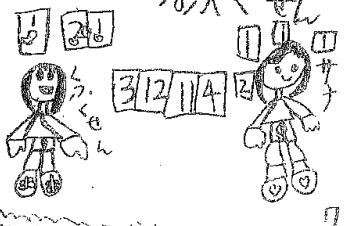
今号から新しく始まった「講座：子どもの成長に伴奏する学童保育を」は滋賀県立大学の福井雅英さんが9月号まで連載。公務員から小学校の教師、そして「人生で最も密度の濃い時間をすごした」中学校教師から研究者になられたユニークな方です。中学教師時代に実践されてきた「子ども理解のカンファレンス」をベースに毎回実践事例を読み解かれていく紙上講座、次回が楽しみです。

かなり以前になりますが、全国研の分科会でご一緒させていただいた泉さんもエッセイを寄せられていて、当時と少しも変わらない優しさ溢れるまなざしで、子どもたちとの教室でのふれあいが語られて、なんだか僕まで優しい気分がさせられました。ありがとうございます！

### 人気コーナー 子どものひろば

守口市 藤田  
ながよしクラブ  
中家 紗奈  
ちゃんがお  
投稿高です

なかにスーピンドヤットの  
がうれしかた。ふく  
せんとやットのたのし  
かたです。ふくせん



### 子どもたちの生活 ちよとのぞきみ

グラビア

## オキワ

湊川クラブ紹介

